

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所内の掲示に加え、理念・ビジョンが記載された「友愛会ハンドブック」が全職員に配布されており、常に思いを共有しながら業務にあたっている			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	コロナ感染拡大予防のため、利用者と地域の交流機会の確保が非常に困難な年であった。そんな中でも、自治会に加入し、地域の状況把握に努めたり、参加可能な行事(清掃活動等)については、職員が参加している	・コロナ禍で地域との交流が難しい中、オンライン交流をおこなえているので、地域の一員として交流ができている ・コロナ禍でも出来る事を出来る範囲で行えれば良いと思われる		地域との繋がりの中で、散歩中の清掃運動、登下校時の見守り等が行える環境整備に努めたい
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年もコロナ感染拡大予防のため運営推進会議は書面開催が続いた。事業所での取り組みを報告し、意見や助言を運営に反映させた	・分かりやすくまとめていただいているので、事業所の雰囲気は伝わっている		今後も委員からの意見や助言を反映させ、地域に根付いた事業所を目指していく
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議にてサービスの取り組みの報告は行っている。また、事故発生時には速やかに連絡、所定様式にて報告書を提出している。	・問題が大きくなる前に行政担当者とならぬ事を相談できる関係の維持が必要である ・具体的にどのような連絡を取られているのか知りたい		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内に「身体拘束廃止委員会」があり、具体的な行為は正しく理解できている、又、定期的に研修を実施し、身体拘束のない事業所づくりに努めている		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修会で虐待について学び、虐待防止に取り組んでいる。又、他事業所の発生事例を共有し、同じ事が発生しないよう相互注意が出来る職場作りに努めている		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待を行ってしまう背景として、心的な要素も考えられる事も改めて認識する事ができた。今後も職場の環境作りが大事である

7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	権利擁護に関する制度について、全ての職員が周知しているとは言い難い現状である			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所契約時には、重要事項説明書、契約内容について詳細に説明をしている。特に居室内、夜間帯の事故のリスク、また医療連携についても十分な説明を行い理解を図っている			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	面会の際に家族の意見を聴取するようにしているが、不十分であると認識している。コロナ禍の為、外部へ発信できる機会は作れていない		A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	面会以外にも定期的に意見や要望を集められるよう、アンケートの作成・実施の検討を行う必要がある
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者は定期的に事業所を訪問し、職員の意見を聞く機会を設けている。又、毎月開催する全体会議において職員から提案をもらい、運営に反映している			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の日々の勤労状況については業績評価シートを元に面談をして、適正に処遇に反映されるようにしている。又、目標管理シートにて個々に目標を設定し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人では、階層別に研修を年間通じて行っている。又、部門・部署においては、年間の研修計画に沿って実施している。外部研修への参加も奨励している		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	例年、包括が開催する「サービス事業所ネットワーク会議」などへ参加していたが、コロナ禍により開催されておらず、交流機会が制限されている			

14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	各々の利用者が出来る事の把握に努め、利用者にも日常生活において役割をもつていただき、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている			
15	馴染みの人や場所との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	事前面談で馴染みの人や場所を伺い関係が途切れないよう、支援に努めているがコロナ禍で外部との接触が制限されており、途切れないような支援を模索している	・ローズ新聞の発行は大いに評価出来る要素である ・工夫して行えている		コロナ禍における馴染みの人や場所との繋がりについて、スタッフ間でアイデア出しを行っていく
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所前の事前面談や、入所日に本人、家族へ聞き取りを行い、入所後も生活の中で観察をし、ケアプラン等に反映している			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人・家族へのヒアリング、連携しているセラピストからの生活リハビリに関する助言を受け、3ヶ月に1度ユニット会議にて課題とケアの方針を検討し、適宜ケアプランの見直しをしている	・事業を進めていく上で最も重要な仕事である ・専門職の意見を取り入れているので良いです	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ケアプランに基づき、ケア内容やケアプラン実施記録を個別の介護記録に記入し、その内容は申し送りにて共有。介護計画見直しに活用している		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	家族対応が困難な場合に、職員が通院同行をしたり必要な介護用品などの購入代行をするなど、柔軟な支援をしている。利用者のニーズへの対応は、コロナ禍や人材不足もあり、十分に対応できているとはいえない	・それぞれにニーズがあるので、できる限り応えていただきたい		本人や家族に、どのようなニーズがあるのか、アンケート等にて聴取し、柔軟な支援ができるよう検討する
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	地域資源の活用をしながら利用者の豊かな暮らしを支援するまでには至らず、施設内での実現に留まっている	・包括支援センターから、地域資源等の情報を得る方法がある		地域包括支援センターとの連携強化に努める

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前のかかりつけ医をそのまま継続していただくよう案内している。本人・家族の意向に応じ往診医などを紹介し、適切な医療を受けられるようにしている			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院先の医療機関へ施設生活、近況に関する情報提供を書面で行っている。また、入院中の治療方針などの情報提供を受け、退院がスムーズに行えるよう密に連携を図っている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	現時点では、終末期対応は行っていないが、入居時に、施設で対応できる身体状況について丁寧に説明し、重度化・終末期においては、同法人内の適切な施設にて対応することとしている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	終末期の対応は行っていないが、終末期のあり方については学ぶ必要がある
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	緊急時の対応についてはマニュアルがあり、誰もが初期対応できる体制としている。応急手当などの訓練は十分にできているとはいえない			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	防火訓練など定期的実施し、職員の実践力や意識を高めている。具体的な地域との協力体制・連携については、更なる協議の場が必要である	・自治会と協力してほしい	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域との協力体制の構築が課題である
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の今までの生活歴を把握し、利用者の尊厳の保持に努めながら、声掛けやケアの実践をしている。プライバシーなどに関する研修は定期的開催している		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設都合のペースにならないよう、利用者それぞれの1日の生活リズムを把握し、本人のペースで暮らしていただけるよう配慮している			

28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	準備や片付けなど、各々のケアプランにも取り入れながら、スタッフと共に実施できている。定期的手作りおやつをし、食事に対する楽しみを感じてもらえている		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	母体病院の管理栄養士の助言等を定期的に受けながら、食事量や水分量を適正に確保できるよう努めている			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月、歯科医師等による職員に対する口腔衛生に関する指導を受け、適切な口腔ケアを実施している。必要に応じて、訪問歯科診療にもつなげている		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主治医、看護師、セラピストなど、それぞれの指導を受けながら、可能な限り排泄の自立に向けた支援を継続している		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	基本的な入浴時間は決めているが、入浴前に、本人の心身状態を確認し、適宜変更も可能にしており、利用者の状況に可能な限り合わせた支援をしている			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中の活動量を増やし、夜間の良眠につなげるなどの対応をしている。夜間不眠が続く場合は、主治医と相談して眠前薬の処方を受けたり、話を傾聴するなどして、安眠の支援を実施している			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	処方内容について不明な点があれば、主治医や薬剤師に確認しながら、確実な服薬支援を行うよう努めている。服薬方法については、誤薬などが起きないように対策をとっている		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設内の家事(洗濯たたみ、洗濯干し、食事の準備、後片付け)や、施設の畑での野菜栽培など、利用者に応じた役割を担ってもらえるよう支援している	・入居者が大事にされている事がよくわかった ・できる事はやってもらった方が良いですね		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	天候の良い日は、施設付近に散歩等をしている。現在はコロナ禍であり、行事や家族対応による外出は自粛している。施設内で、代替出来る支援を検討している	・可能な範囲で実施できると良いと思う		コロナ禍でも出来ることを、出来る範囲で検討・実施する
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	現在は、施設内にてお金を使用する機会がほぼ無くなっているが、本人の希望があれば、家族の同意のもと金銭を所持してもらうことは可能な体制としている			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望があれば、職員のサポートで電話をかけたり、手紙をやりとりすることはできる。コロナ禍で、もっと積極的に様々なツールを活用し、交流できるような体制をとっていきたいと考える			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事故等の予防の為、生活動線上に転倒等に繋がるようなテーブル配置にしない等、共有空間や居室の配置には注意している。生活空間内に季節感を取り入れ、楽しみを感じてもらえるようにしている		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望を伺い、本人の返答を得るのが困難な際は、家族に確認し実現できるよう、ケアプランに反映させて実行している			

41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居前後のアセスメントの中で、本人や家族に対して、生活史や趣味等を確認している。入居後も、本人に対して新たな楽しみや趣味の発見の為に、声掛け・確認に努めている			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主治医はもとより、看護師、セラピスト、管理栄養士などの多職種で、利用者の日々の状況を情報共有し、適切なケア・支援を提供できる体制としている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	可能な限り、在宅生活中に行っていた家事や趣味が、本人の能力に応じて入居後も継続できるよう、ケアプランに位置づけ支援している			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の思い出を想起させ、居心地が良くなるような物を、居室に置いてもらうように配慮している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近隣の散歩や、施設内行事を実施しているが、本人の意向に沿った外出や催事への参加は、コロナ感染予防のため、現在は自粛していただいている	・可能な範囲でできると良いと思います		できる事をできる範囲で実施していきたい。どのような形であれば催事に参加する事ができるのか、具体的に検討していく必要がある
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主治医や、セラピストと情報共有し、本人の能力を把握し、本人に合った生活目標や役割活動、楽しみごとを実施できるよう、ケアプランに反映させている			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中はフロアで馴染みの入居者やスタッフと談笑したり、利用者ごとに担っていただいている役割にそって活動してもらうことで、いきいきと暮らしていただいている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	遠慮なく話せる環境作りと、役割を担っていただき、今後も活動場面の継続に努めるべきである

48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍において、地域との関わりが非常に制限されており、課題に感じている。ちいき食堂「Oneぱくキッチン」への参加も検討したいが、現状は難しい状況がある	・オンラインを活用した方法も検討ができると良い ・コロナが終息して行えればよいと思う	/	コロナ禍においても、地域の方々と関わったり、交流できる機会を作っていきたい
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	当施設での楽しみや、役割を提供し、目標を持った、健康で安全な生活を送って頂くよう、職員間、他職種との連携を深めながら、ケアをしている。今後、家族や地域の方々との繋がりを途切れさせないための取り組みが課題である	・外出支援、地域交流以外は適切なケアができている ・多職種の連携は他のグループホームにはない ・多くの行事が行えていて、充実した生活が送れている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員間、多職種との連携を深めながら安心、より良い日々を送る事ができようこれからも支援する。又ご家族、地域の方々との繋がりを途切れさせないために、代替となる交流の機会を設ける事が今後の課題である

目標達成計画

作成日: 令和 4年 3月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	面会の際に家族の意見を聴取するようにしているが、コロナ禍で面会が禁止、もしくはリモートだったり面会の機会が減少している。また来所が難しい家族の方には聴取する事ができていない状況である。要望を外部に発信するには至っていないため、課題である。	利用者、家族の意見、要望をヒアリングする機会を設け、それらを運営に反映させることができる。	引き続き面会の際には意見を聴取するようにするが、面と向かって言いにくいこともあると思われるので、アンケートの作成、実施を行い、いただいた意見、要望を運営に反映させる。	12ヶ月
2	20	地域資源の活用が十分にできず、施設内の支援のみにとどまっている。コロナ禍と言うこともあるが、地域の資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援すべきである。	地域の資源を活用し、本人が心身の力を発揮しながら安全に豊かな生活ができるよう支援する。	地域包括支援センターとの連携強化に努め、地域資源の把握をし、1人ひとりに合った資源を見極め介護計画に繋げる。	12ヶ月
3	48	コロナ禍において、地域との関わりが非常に制限されている。今後はwith コロナを念頭に、コロナ禍でも出来ることを検討し、その実現に向け取り組んでいく必要がある。	近隣や地域の方々に関わる事ができる。	散歩時の清掃、登下校時の見守り(時下帯の把握)オンライン交流などの検討(学校、地域)「Onelぱくキッチン」への参加の取り組みの環境整備、地域の催事予定の把握、参加検討、参加への実施等を行っていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

